

NEDA□□□□□□□□□□□□□□

Image

講演2 NEDAを日常診療にどう取り入れるか

富沢 雄二 先生 順天堂大学 脳神経内科 准教授



Image

講演2

NEDAを日常診療に どう取り入れるか

富沢 雄二 先生 順天堂大学 脳神経内科 准教授



MS□□□□□□

MS MS ADL QOL

MS Treat to Target T2T
MS T2T
NEDA no evidence of disease activity NEDA 1 SDM

MS RAW PIRA PIRA
 10^1 PIRA

NEDA 2013 10 NEDA MRI
3 NEDA-3 MRI NEDA-4

Image

图 1



対象：イタリアのMSレジストリのデータから得られた、発症から1年以内で追跡期間5年以上のCISおよび早期再発寛解型MS患者5,169例

リミテーション: 障害の悪化の定義を、障害の発生が確認された最初のイベントとEDSSスコアのみとしており、従来のPIRAはT25FW、9HPTなど幅広く評価していたため、本研究はPIRAを過小評価している可能性がある。軽度の再発やMRI所見の炎症などPIRAに影響するイベントを排除している可能性がある。

Portaccio E. et al. Brain. 2022;145(8):2796-2805.

图 2

図2 CCIと全脳容積の関係



対象：2017年6月～2018年6月に東北医科薬科大学にてMRI検査を受けたMS患者75例、健康成人21名

リミテーション: 単一施設研究であり、選択バイアスの影響がある。MS患者の臨床経過がやや軽度であること、脳容積測定値は生活習慣、遺伝的要因など、生物学的要因の影響を受ける可能性がある。脳萎縮に関する老化が、脳全体と脳梁で同様でない可能性がある。

Fujimori J. et al. Mult Scler Relat Disord. 2020;45:102388.

□ □ □ □ □ □ □ □

NEDA-4 MRI EDSS
 1

